

後続く人たちへのメッセージ

2026年3月岡山朝日高等学校卒業予定 落合悠斗

私は高知大学医学部医学科に総合型選抜で合格しました。

一次試験は一般入試の二次試験のような学科試験で、二次試験は二日間にわたり、初日はグループで医学の専門的な内容について一日中考える試験、二日目は個人面接という形式でした。学力だけでなく、思考力やコミュニケーション力も求められる入試で、採点基準もよくわからないので、運要素もあると思います。

ただ、事前にマニュアルなどを使って面接の仕方を練習していたとしても、型にはまったやり方では歯が立たず、その場で失敗しても自分の頭できちんと考え、言葉にすることができないと厳しい試験だと思います。実際私は言い間違えて頭が真っ白になりそうな場面もありましたが、ゆっくり考えなおして応答し、何の問題もありませんでした。日頃から、しっかり考える訓練をしておいた方がよいと感じました。

もともと私は中高一貫校に通っていて、スポーツが大好きで野球部のエースとして全力で取り組んでいました。中学生の時は塾には行かず、野球と学校の予習だけで勉強していました。学習面では良い部分もありましたが、全体に雰囲気は自分には合わず、悩んだ結果、高校からの進路変更を思い立ち、友達と一緒に公立高校を受験することにしました。

その決断をしたのが願書の締め切り当日で、本当にギリギリでした。

高校入試に関しては、中高一貫校の理科や社会は公立中学と内容が全く違っていたので、公立高校向けの理科社会の受験勉強を1ヶ月足らずで準備しないとイケないのでかなり苦労しました。

それでも、いま振り返ると公立高校を受験しなおしたのは本当に良かったと思っています。

中高一貫校にそのまま進むと、そのままノンストップで高3の内容までいってしまいましたが、高校を入りなおしたことにより、中学で先取りしていた高校の授業内容が“良い復習”になり、理解がぐっと深まりました。その公立高校では、特に数学の進度が速く、高1の1学期で数ⅠAが終わるカリキュラムだったのですが、自分にとってはちょうど良いペースでした。一方物理・化学はとても進度が遅かったので、そのまま先取り

を続けました。部活はやらず、中学から一緒に受験した友達と将棋部(=実質帰宅部)に入りました。そのぶん、高校の学園祭などのイベントには全力で参加し、中学とは比べものにならない規模の行事で、本当に「青春だったな」と思うような経験がたくさんできました。

パスカルは自分の予定に合わせて日程を柔軟に調整してくれて通いやすく、忙しい時期でも無理なく続けることができました。また、志望大学の過去問をすぐに準備してくれたり、必要な対策をどんどん進めてくれたので、効率良く準備ができました。そして何より、パスカルの先生との対話が思考訓練になったし、ある意味良い息抜きになってとても楽しかったです。張り詰めた受験生活の中でも、自然にリラックスできる時間があり、それが気持ちの面でも支えになりました。

反省点を挙げるとすれば、高1・2の頃に部活をしていなかった分、放課後に「時間がある」と思ってしまい、ほとんど遊んでばかりいたことです。この時期の家での勉強時間はほぼゼロで、「時間はあるように見えて、実は全然ない」ということを後になって痛感しました。宿題や先取りは学校の授業中にやっていました。

後輩へのメッセージとしては、もし少しでも今の学校が自分に合わないと思うなら、転校を含めて環境を変える選択肢も真面目に考えてほしいです。友達がいないから、面倒臭いからという安易な理由で、合わない学校に毎日通い続けるほど勿体無いことはありません。友達は入ったらできるし、面倒臭いと言う理由で受験せず、後悔している人を何人も見ました。環境が変わるだけで勉強の姿勢も大きく変わります。自分に合った場所で頑張ることが、一番力を伸ばせるということを実感しました。後輩全員の第一志望校に合格できることを祈っています。頑張ってください！